

⑨日本国特許庁

⑩特許出願公開

公開特許公報

昭53—26981

⑪Int. Cl.²
H 02 G 1/14

識別記号

⑫日本分類
60 D 22

庁内整理番号
6969—52

⑬公開 昭和53年(1978)3月13日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ケーブル分岐方法

⑮特 願 昭51—101967

⑯出 願 昭51(1976)8月26日

⑰発 明 者 大堀利之

日立市日高町5丁目1番地 日
立電線株式会社日高工場内

同 河野広美

日立市日高町5丁目1番地 日
立電線株式会社日高工場内

⑱発 明 者 相内修

日立市日高町5丁目1番地 日
立電線株式会社日高工場内

同 千歳正則

日立市日高町5丁目1番地 日
立電線株式会社日高工場内

⑲出 願 人 日立電線株式会社

東京都千代田区丸の内2丁目1
番2号

⑳代 理 人 弁理士 佐藤不二雄

明 細 書

発明の名称 ケーブル分岐方法

特許請求の範囲

1 複数本の単心撚り合せケーブルの分岐をとる部分のケーブル被覆層を剥離し、露出した線心の絶縁層を剥離した部分に、分岐のため配線を行なう場合、前記のケーブル被覆層の剥離により露出した複数本の線心を周囲に複数個の電線固定部を有するスペーサの介挿により離間保持させることにより分岐作業を容易とすることを特徴とするケーブル分岐方法。

2 前記電線固定部が電線の挿入可能な切溝である特許請求の範囲第1項記載のケーブル分岐方法。

発明の詳細な説明

本発明は、ケーブルの分岐方法に関するものである。

例えば、トリプレックス形などの単心撚り合せケーブルから分岐をとる場合には、先づケーブル被覆層を剥離し、次に分岐を行なう部分の線心の絶縁層を剥離し、露出した導体に接続すべき導体の

接続作業を行なうが、この際、ケーブル内の複数本の線心の間を広げなければならない。しかし、これらのケーブル内の線心は撚り合せであるので、単に広げただけでは撚り合せ力によつて元に戻つて作業ができない。

従つて、このような場合には、他の作業者が手で線心の間を広げた状態に保持して作業を行なう方法が用いられていた。しかしこのような方法は余計な人員が必要であり、かつ比較的剛性の大きいサイズのケーブルの場合は、撚り戻り力が大きく事実上作業を行なうことができなかった。このため、線心間に不特定の薄片^等を挿入することも行なわれているが、不特定であり、作業性の点から好ましいものではなかった。

本発明は、このような欠点を除去するためになされたもので、簡単、容易な作業によつてケーブルに分岐作業を安定かつ作業性よく実施可能とすることを目的とするもので、この種作業において、周囲に複数個の電線固定部を有するスペーサを線心間に挿入し、線心を離間保持させることを特徴



とするものである。

以下実施例について説明する。

第1図は3心の場合を示すもので、ケーブル被覆層の剥離された単心撚り合せケーブル1の3本の線心2、3および4の間にスペーサ5および6を挿入し、これらの周囲に設けられている切溝52、53および54、62、63および64内に線心2、3および4を保持させる。このスペーサ5および6の挿入により、線心2、3および4は互いに離間配置され、適当なスペースが保持されるので、線心2、3および4の絶縁層の剥離、分岐のための配線の巻付け、ハンダ付け等の作業が容易に実施できる。

第1図は分岐の行なわれている状況を示すもので、7および8は接続される線心を示している。

この際用いられるスペーサには、例えば、第2図、第3図に示す如く、円板11の3等分或いは4等分した位置に切溝12、13がもっている。従つて、この切溝にケーブルの線心をはめ込むとスペーサはケーブル自体の撚り合せ刀によつて固

定されるので、作業中にスペーサがはずれずに固定することができる。

なお、切溝の数は3、4にかぎらず線心の数に応じてよりければよく、数配置、材質、構造は適宜選択することができる。

以上の如く、本発明ケーブル分岐方法は、分岐作業の際、適当な一定のスペースが常に確保でき、その巾は使用するスペーサの大きさ、長さ方向の距離はスペーサを移動することにより容易に変えることができ、簡単、容易に安定な保持ができる。従つて、作業は他人の助力を必要とせず、作業性も優れたものであつて工業的効果の大なるものである。

図面の簡単な説明

第1図は本発明ケーブル分岐方法の実施状況を示す説明図。第2図および第3図は本発明の実施に用いられるスペーサのそれぞれことなる実施例の正面図である。

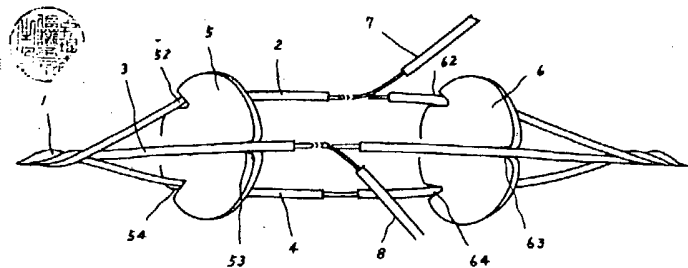
図において、1はケーブル、2、3、4および

7、8は線心、5、6および11はスペーサ、

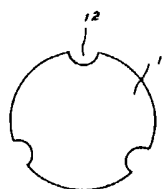
52、53、54、62、63、64および12、

13は切溝（電線固定部）である。

代理人 井垣士 佐 藤 不二雄



第2図



第3図

